

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		京都市児童発達支援センター こぐま園		公表日		令和 8 年 2 月 2 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	23		グループごとに定員が設けられ、基準に合った適切なスペースで支援を行っている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	24		特性に合わせて個別対応の必要な児も多く、配置数以上の体制で支援をしている場面も多い。 発達がゆっくりなクラスに関しては1対1で対応している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	24		個々に合わせて場面設定をし、工夫するようにしている。	準備が細かく必要なので、時間的に厳しいことがある。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	23	1	療育前後に掃除を行い、清潔な空間が保てるように心掛けている。 換気はこまめに行っている。 子どもたちの注意がそれないような空間づくりを心掛けている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	24		個別の対応や保護者との面談が複数重なる場合は、ロビーなどで保護者さんとお話しさせていただくことがある。 決して部屋数にゆとりがあるわけではないが、やりくりしながら必要な対応が取れるように努めている。 パーティション等で区切ることができるようにしている。 グループに個別の対応が複数必要な場合は難しいが、保護者グループの部屋を変更するなどして、対応しているケースもある。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	24		自己評価や面談を通して業務を進めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24		保護者用のアンケートを配布し、評価をいただいた内容を職員間で共有している。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	22	1	かしこまって発言する場はないが、意見は言いやすい。 ヒアリングや面談等で園長や主任と話すことができる機会がある。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	18	4				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	23		法人研修キャリアパスポートに基づき研修が開催され、該当する時期に応じた内容を学ぶことができている。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	24					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	24		担当職員だけでなく、複数の職員の意見をもとに、支援計画を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	24		複数の職員の記録や意見をもとに支援方法を考えている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	23	1				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24		D T等の検査結果や日常の記録をもとに、こどもの状況を確認している。			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	24		項目ごとに該当する時期、年齢等、その子に合った支援内容が設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	4	主にリーダーが立案し、副リーダーが相談役となりグループ全体で確認。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	24		基本的な活動は年間で決まっているが、子どもの姿やねらいに合わせ柔軟に対応している。同じ活動が何度も重ならないよう組み立てている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	24		個別活動と集団活動の機会を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	23		必ず療育前に活動項目、ねらい、スケジュール等の確認を行い、共通理解を促している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	23		療育後のミーティングの際、メイン活動やフィードバック等で気付いたことを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	24		日々の療育での様子を的確に記録し、その記録をもとに支援内容を考えている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	23	1	定期的なモニタリングに加え、必要に応じてモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	23		担当職員(子ども・保護者)がやむを得ず参加できない時は、事前に様子などをまとめたものを用意し、共有した上で参画している。主任クラスの職員が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	23		地域の学校や園、家庭と電話連絡や訪問を通して連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	22		園訪問等の様子を踏まえながら支援内容を考えている。電話連絡や見学等を通して情報を共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24		療育のまとめを使って、現在の状況や支援方法を伝えている。希望があれば、療育見学や懇談、電話での対応を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	20			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	20		更なる深い知識・学びを得るため、多くの職員が研修に参加している。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	20		園長・主任や相談支援の職員が中心に参加しているが内容によっては現場の職員も参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	16		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	21		フィードバックの際、活動報告と共に普段の様子を聞き取り支援に活かしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	20	1	保護者に向けて、STやOT、相談支援の学習会を開催している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	23		支援計画や利用料等の説明については、グループ、または個別で説明し、質問がある場合は丁寧な回答を心掛けている。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	24		計画書作成前に、保護者の意見を確認する機会を設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	24		個々に説明の機会を設け、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	24		フィードバック等の際に、普段の悩みについて相談できる機会を設け、解決に努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	10	父母の会はないが、保護者グループで交流する機会がある。 また、定期的に保護者さんに療育に入ってもらい関わってもらう機会を作っている。 夏休み期間は同伴したきょうだいも夏祭りに参加してもらった。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	23		園長をはじめ、主任や担当職員が対応できる体制を取っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	19	4	HPやSNSを使用してではないが、行事予定を前月に保護者に伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	24		外部への個人ファイル持ち出しを行わないよう、職員間で徹底した意識の共有をしている。 個人ファイル等は、鍵のかかる棚で保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	22		普段の療育やフィードバック等では、個々に合わせた伝え方ができるよう心掛けている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		19		京都市児童福祉センターで地域住民を招待しての“センターまつり”があったが、コロナ以降なくなった。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	24		今年度は中京警察署にも協力をいただき訓練をした。 緊急時の対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿った訓練を実施している。 また避難訓練の様子を毎月掲示し、保護者へ周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	24		BCPに基づき、訓練を実施しており、各自の役割の確認ができています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	21	1	療育前の打ち合わせや、療育後のミーティングで注意事項の確認をしている。 確認した注意事項をすべてを記憶することは難しいため、リスクの高い方については、不測の事態に素早く対応できるよう、情報シートなどを作成し活用している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	4	食事の機会はないが、アレルギーの把握はしている。 PECS等でお菓子等食べ物を使用する時は、保護者に確認をとってから行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	23		定期的(月1~2回)に遊具や療育室の安全点検を行い、異常がみられた場合は修繕に努めている。また安全が確認できるまで使用を禁止する等の対応をしている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	23		避難訓練等で気をつけるべき点、役割について共有し、安全確保に努めている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	24		朝会でヒヤリハットおよび事故の報告を行い周知している。 詳細についても記録を全員で回覧し、危険を回避できる方法を考え、再発防止に努めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	23		虐待防止の研修を受講し、研修で得た学びを日々の療育に活かしている。		

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	2	身体拘束が必要なケースがなく該当者がいない。	
----	--	----	---	------------------------	--